

研究実践

教務主任

1 研究テーマ 算数科

「分かる楽しい授業を進めるための指導の工夫」

2 テーマへの思いと研究実践

(1) 研究テーマへの思い

本校の学習状況から、昨年に引き続き、算数における基礎的事項の理解の定着を確実なものにしていくことが求められる。子どもたちが解くという楽しさや分かるという喜びを味わうことができるように指導することを重視して授業を行っていくことが重要であると考えている。そこで、「考える」時間をしっかり設定して基礎的事項の理解を図ると共に学習意欲の喚起に繋げたいと考えた。

算数の時間は、既習事項を活用して様々な解き方を考えることに重点を置いた。それは、課題をよく考えて導き出すという過程には、考える方法が分かり導き出す楽しさを感じさせるだけでなく、そのことが、学ぶ意欲を喚起すると考えられる。

また、考えて導き出すといった困難さは理解を鮮明にするものであり、単なる暗記はいずれ忘れ去られてしまうが、導き出す方法が分かり、解法を理解できることは、基礎的な事項の定着に繋がる。

そのためにも、友だちのいろいろな考え方に触れさせ、さらにその考えの過程のよさや合理性等に気付かせるなど、多様な考えで解いていく力を育てていきたい。

自分の考えはあっているのか、友だちと話し合っただけで分からない時は質問してみる等友だちとのかかわりを重視して、考えること・分かることの楽しさを実感させて学習意欲や理解に繋げていきたいと考えた。

(2) 研究実践について

具体的に基礎的事項の内容を理解できるようにするためには、次の6点を重点に実施することとした。

課題把握をするための工夫

問題の文章を読解して、線分図や絵図等で問題の意図をつかむことができるようにする。

考えるための具体的手だての工夫

導き出す手がかりとして実物の製作・実測、絵図・線分図等を活用させる。答えの見当をつけたり、既習事項を想起させるなどして解法を導き出すことができるようにする。

考える時間の保障

考える時間を十分保障して考えを生み出すことの楽しさを実感できるようにしたい。また、近くの友達やグループで考えを検討するなどの学び合う時間を設定するようにする。

全体で練り合う・学び合う場の工夫

練り合い場面では、様々な考えを出し合い、友だちの考えを聞き、質問したり意見を出しあったりしてそれぞれ考え方の異同を見出ししたり、考えのよさに触れながらいつでも簡単にできる等の観点でよりよい解き方を探っていきたい。

そのため、友だちの考えのよさに触れて、実際にその考え方を用いて解いてみて実感できるようにし、本時のねらいにあった考えを導き出したりすることができるようにする。

個に応じた指導の充実

基礎的事項の定着を図ることができるように、特に線分図を活用して課題把握の仕方の指導にあっている。

ノートの活用

ノートには、自分の考えや友だちの考え、授業での重要事項やポイントを丁寧に書くなど授業での学習内容をしっかり記録して本時の理解に役立てる。また、学習の経過を再度確認するなど復習することで理解を確かなものに役立てるようにする。

以上のことを重点に授業改善を図ってきた。

3 成果と課題

課題把握や既習事項を想起させて課題を解くことに時間を要してきた。「考える」場面を多くし、絵図や線分図を活用して課題に取り組んだ。その結果、考える方法が少しずつ分かり答えを生懸命導き出す意欲や姿勢が見られるようになってきた。また、線分図の捉え方や書き方を指導してきた結果、活用してスムーズに考えることができるようになってきている。身近な友だちから分からないところを聞く、質問する等の学び合いもかなりできるようになった。現在は、既習事項を想起して自分なりの考えを導き出すことができるようになってきている。また、多少難解な問題にも意欲的に取り組むことができるようになった。

しかし、まだ練り合い場面では、自分の解き方を分かるように説明することがまだ苦手な子どもが多く、大勢で練り合っていくには表現する力をもっと育てていかなければならない。今後は、さらに、これらのことを継続して取り組み、さらに大勢の前で自分の考えを相手に分かるように伝えたり友だちの考えに質問したりしながら考えを深めていけるようにしたい。また、積極的に発展的な学習も取り入れて難解な問題にも挑戦させていきたい。

